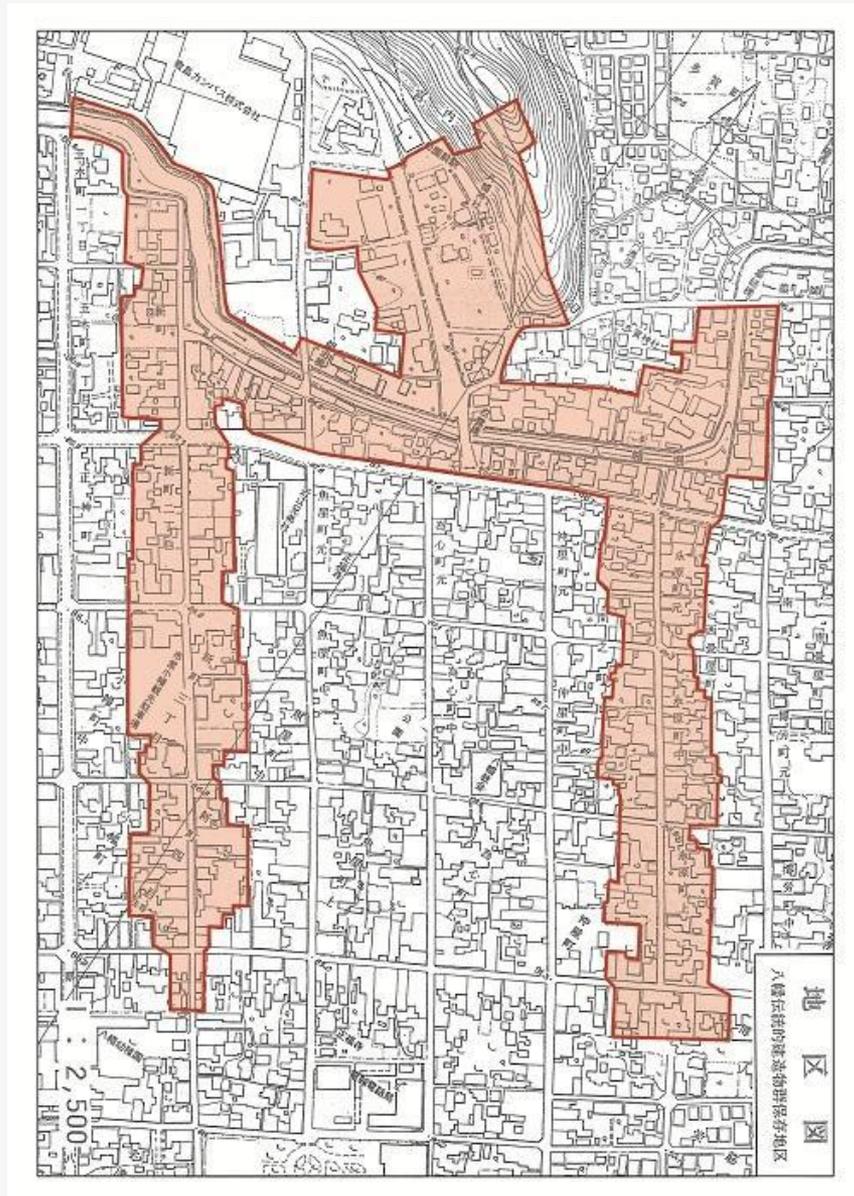


近江八幡市八幡(滋賀県)

(1) 保存地区の概要

地区名	近江八幡市八幡
種別	商家町
面積	約13.1ヘクタール
選定年月日	平成3年4月30日
特徴	八幡城下町は、天正13年(1585)、豊臣秀次により八幡山城の城下町として開町され、後に近江商人の商業活動の中心をなす在郷町として繁栄した。保存地区は、この城下町の一角に位置し、洗練された意匠の近江商人の本宅や居宅が建ち並び、通りに望む見越しの松とともに豊かな町並みを形成している。また、八幡堀周辺は、堀に接して、土蔵が建ち並び日牟禮八幡宮周辺や水辺の緑とともに優れた歴史的風致を保っている。



近江八幡市八幡(滋賀県)

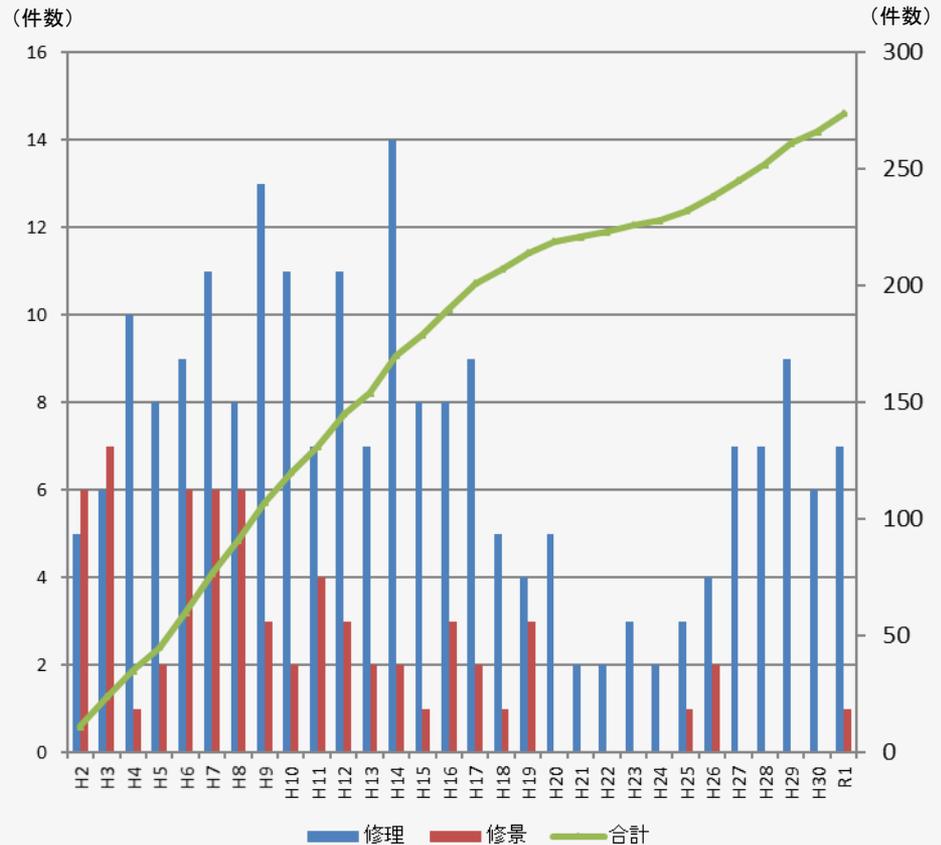
(2) 保存地区のあゆみ

昭和40年代後半	八幡堀再生の市民運動が起こる
昭和51年度(1976)	伝統的建造物群保存対策調査
昭和54年度(1979)	第2回全国町なみゼミ開催
昭和58年度(1983)	水緑都市モデル整備事業
昭和63年度(1988)	「近江八幡市伝統的建造物群保存地区保存条例」制定
平成3年度(1991)	『重要伝統的建造物群保存地区』選定(4月)
平成10年度(1998)～平成15年度(2003)	市指定文化財 旧伴庄右衛門家住宅の活用のための保存修理事業実施
平成13年度(2001)	選定10周年 全国伝統的建造物群保存地区協議会総会開催・・・住民プログラム初開催
平成17年度(2005)	重要文化的景観「近江八幡の水郷」選定・・・八幡堀が選定範囲に入る
平成29年度(2017)	近江八幡市立資料館の整備(内閣府「地方創生拠点整備交付金」事業として実施)

(3) 保存地区の保存と整備

● 修理修景事業の実施(平成2年度～)

修理事業実施件数	計 210件
修景事業実施件数	計 64件
総 計 274件	



近江八幡市八幡(滋賀県)

(4) 保存地区の活用とまちづくり

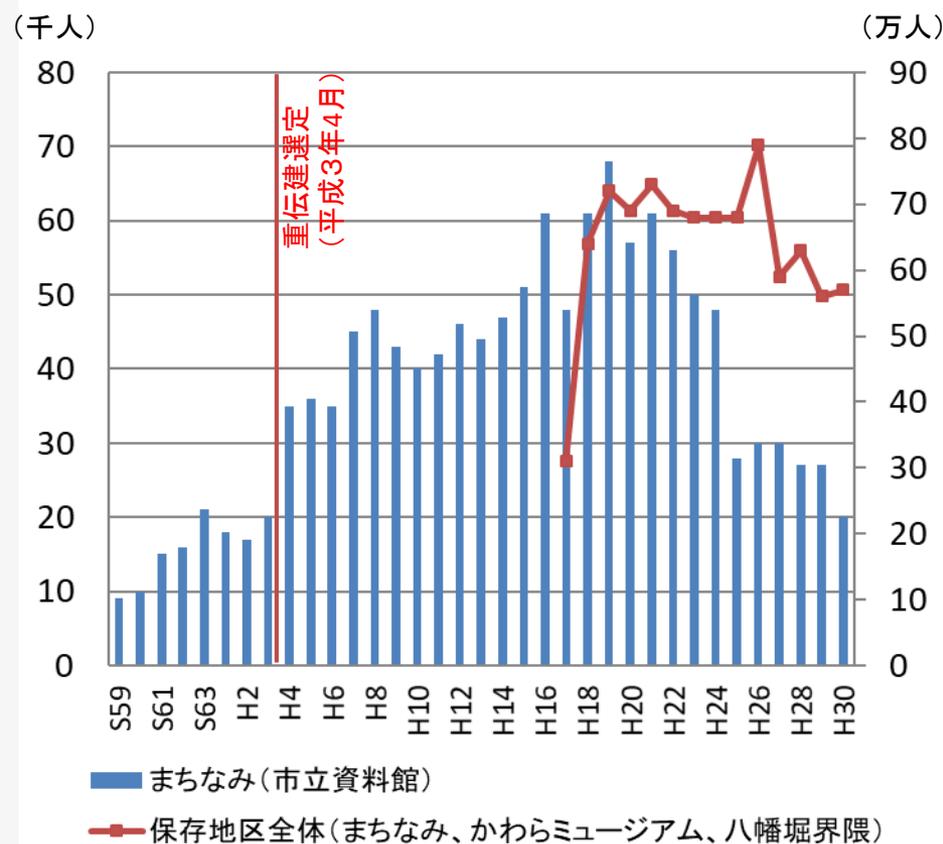
その1 観光資源としての活用

●観光客の増加

昭和59年は年間1万人にも満たない観光客数であったが、地区選定後は観光客数が増加し、ピークの平成19年には、6万8千人の観光客が訪れている。地区全体でも年間約50万人の観光客の方が訪れ、保存地区の賑わいが創出されている。

●八幡堀まつりの開催

毎年9月に八幡堀と保存地区周辺をライトアップし、非公開の建造物の公開や寄席、コンサートなどを実施。毎回3万人前後の多くの観光客が来場されている。



その2 建造物の利活用

●建造物の修理による利活用

【事例】旧伴庄右衛門家住宅

旧市立図書館等として使われていた近江商人旧伴家住宅を平成10年度(1998)から平成15年度(2003)にかけて保存修理を行い、公開施設として活用している。

現在は、運営を建物の所有者である(公財)八幡教育会館が行い、地域文化・伝統技術についてのワークショップ、歴史講座、町家見学会などを実施し、近江八幡の文化を後世に伝えるまちづくり活動を行っている。

●空き家の保存・利活用

地区内に増加している空き家について、所有者に対して保存・活用についての働きかけを行い、修理事業による建造物と町なみ景観の保存・利活用を行っている。

・近年の実績件数	平成26年度(2014)	1件
	平成28年度(2016)	1件
	平成29年度(2017)	1件
	平成30年度(2018)	1件
	令和元年度(2019)	3件

【事例】平成29年度実施 K家住宅



修理後(現況)



数珠作りワークショップ



修理前



建物破損状況



歴史講座



町並み探訪



修理前



修理後

現在宿泊施設として活用。